

シカ、イノシシ、クマなど兵庫県にはいろいろな野生動物が生息していますが、いったいどれくらいの数がいるのでしょうか？集落周辺での出没や農作物の被害から、昔より増えていそうだと感じることはあっても、普段は人目の届かない森のなかにすむ動物の数を言い当てるのは、現場で調査している研究者でも難しい問題です。

たとえばツキノワグマの目撃数は年によって変動しますが、これは生息数の増減よりも、ドングリが凶作の年に行動範囲が人近くまで広がることが影響しているようです。そのため、クマの生息数を推定するには、目撃や捕獲の情報だけでなく、毎年のドングリのなり具合も考える必要があります。こうしたデータを元に推定すると、一時は100頭ほどしかいなかった兵庫県のツキノワグマは、狩猟の禁止や集落での被害対策などの結果、900頭をこえるまで回復したとされます。

オオカミのように駆除しすぎて絶滅させてしまったり、シカのように保護しているうちに爆発的に増えてしまったりと、あいまいな感覚での野生動物管理は失敗につながります。不確実性の大きい現象だからこそ、科学的な根拠をもとに、人と動物の関係を考える必要があります。

高木 俊（兵庫県立大／森林動物研究センター）



ワナで誤って捕獲されたツキノワグマ

イノシシ用のワナで誤って捕獲されたツキノワグマです。麻酔した後、標識の有無、体の状態、繁殖状況などを現地で記録します。その後安全な場所まで移動し、放獣されます。



兵庫県のツキノワグマの推定生息数と目撃件数
目撃件数はドングリの豊凶により年変動が大きい。

トピックス

新入館員 自己紹介



自然・環境マネジメント研究部
三原 菜美

鳥取県立博物館での非常勤を経て、4月からひとくはくに来てきました。大学では植物が動物に花粉や種子を運んでもらう過程を研究してきました。これまでの経験を生かし、ひとくはくでも生きものの魅力をお伝えしていきたいです。よろしくお願いいたします。



生涯学習課
上田 雄一郎

尼崎市立浜小学校より異動となり、4月から特注セミナーや教職員向けのセミナーを中心に、利用される学校や一般団体の方々と博物館との調整役をしています。皆様にとって意義のある博物館になるように日々汗を流してまいります。よろしくお願いいたします。



総務課
石津 成美

今年の4月から、人と自然の博物館で勤務することになりました石津と申します。博物館での勤務は初めてですが、学ぶことも多く、微力ではありますがよりよい博物館となるよう努めたいと思います。よろしくお願いいたします。



総務課
堀川 由美子

この4月から人と自然の博物館に参りました堀川です。博物館での仕事は初めてですが、これまでの教育事務職の経験を活かし、人と自然の共生「ひとくはく」の運営に役立てるよう、努めて参ります。よろしくお願いいたします。



特集
調査体験ツアー in 台湾
高校生のための生き物

前日の夕方、専門家の指導の下に自分たちで設置したハーブトラップで捕獲されたコウモリを観察しました。
(台北市立動物園、虫虫探索谷)